



令和3年産の弘前地区管内の肥大状況は、平年よりやや大きい傾向となっています。
開花期間中の強風により、カラマツが一部園地でみられております。また凍霜害もありますが、結実量は十分にありと見られます。仕上げ摘果など、作業を計画的に進めましょう。
現在、ナミハダニの発生が早まっているとともに、アブラムシの発生も見られますので注意しましょう。

ふじの肥大状況

6月11日現在 (単位cm)

		薬師堂	千年第一	小沢
ふじ	本年	3.0	2.8	2.9
	平年	2.6	2.7	2.7



摘果

摘果が遅れたり最終的な着果量が多いと、今後の玉伸びだけではなく来年の花芽形成や樹勢維持に悪影響を及ぼすので、**仕上げ摘果**は新梢が停止する**7月上旬まで**に終わるようにしましょう。

果実は2~4年枝上に着生した頂芽に成った果実を残し、強風等によるサビ果や、逆さ実、果台が長い(ふじでおよそ2cm以上)果実は摘み取り、葉が多く充実した果そうに成らせましょう。

◆摘果作業のスケジュール◆



すす病対策

有袋栽培では薬剤散布後5日以内を目安に袋かけを行いましょう。

なお、不順天候が続いたり間隔が空きすぎた場合は実洗いを実施してから袋かけを行いましょう。
また、6月下旬を目安に袋かけを終了するようにしましょう。(袋かけが遅れると鮮やかな色が入りにくくなります)。
※開花が早い年と満開後71日~120日の総降水量が多いとつる割れの発生が懸念されますので、つる割れ対策の為に袋かけに取り組んでみてはいかがでしょうか!

ダニ対策

- ・現在、ナミハダニの発生が早まっております!!
- ・発生状況によっては、右記を参考にダニ剤の変更をしましょう!
- ・ナミハダニは樹冠内部の主幹や主枝から直接出ている新梢中位葉について観察してください。
- ・散布の目安は1葉当たり2個体以上、あるいは寄生葉率50%以上です。
なお、殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、各薬剤ともに年1回の使用としてください。
(アカリタッチは薬剤抵抗性の発達する恐れは少なく、使用回数はありません。)

薬剤名	剤型	倍数	リンゴハダニ	ナミハダニ	サビダニ
アカリタッチ※1	乳剤	2000倍	○	○	○
エコマイト※2	顆粒水和剤	2000倍	○	○	○
マイトコーネ	フロアブル	1000倍	×	○	×
コロマイト※3	乳剤	1000倍	○	○	○
オマイト※4	水和剤	750倍	○	○	×

- ※1 アカリタッチは気門封鎖剤の為成虫のみに効果があります。アカリタッチを使用する場合は展着剤は不要となります。
- ※2 エコマイトは卵にしか効果がありません。
- ※3 コロマイトは7月以降に使用してください。
- ※4 オマイトは8月以降に使用してください。

薬剤散布

回数及び散布量	散布時期	対象病害虫	基準薬剤					
			無ボルドー方式		ボルドー方式			
500L / 10a	落花40日後 (6月中下旬頃)	黒星病 斑点落葉病・炭そ病 すす点すす斑病 褐斑病・アブラムシ モソクガ・ハダニ類	1 ラピライト	500倍	1000ℓ 当たり薬量 2kg	1 ICボルドー	50倍	20kg
			2 モスピラン	4,000倍	250g			
			3 エコマイト	2,000倍	500g			
			4 スイカル	1,000倍	1kg			
			※ハダニ類の成虫が見られる場合は、アカリタッチ乳剤2000倍も加用しましょう。アカリタッチを使用する場合は展着剤は不要となります。					
500L / 10a	7月初め (7月上旬頃)	斑点落葉病・炭そ病 すす点すす斑病 褐斑病・アブラムシ モソクガ・ハダニ類 リンゴカゲムシ	1 オキシンドー	1,200倍	835g	1 ICボルドー	50倍	20kg
			2 サイハロン	2,000倍	500g	2 サイハロン	2,000倍	500g
			4 スイカル	1,000倍	1kg	3 コロマイト	1,000倍	1000ml
			※アブラムシの発生が多い園地ではウララDF4,000倍、またはコロト6,000倍かトランスフォームF4,000倍を加用しましょう。					
500L / 10a	7月半ば (7月中旬頃)	斑点落葉病・炭そ病 すす点すす斑病 褐斑病・アブラムシ モソクガ・ハダニ類 リンゴカゲムシ	1 オキシンドー	1,200倍	835g	1 ICボルドー	50倍	20kg
			2 サムコル	5,000倍	200ml	2 サムコル	5,000倍	200ml

ここ最近暑い日が続いております! 農作業中の事故には十分気をつけましょう!